

学校だより



春里



平成29年度 12月1日号

学校教育目標

「生きる力」の育成

【目指す生徒像】

- ・笑顔で元気にあいさつする生徒
- ・礼儀正しく、仲良く助け合う温かい心の生徒
- ・進んで学習し、運動を好む生徒
- ・自ら考え、夢を持って行動する生徒

さいたま市立春里中学校

## 自己有用感



平成29年のカレンダーも残り一枚となっていました。寒さも本格的になり、インフルエンザ情報にも気を付けなければいけない時期でもありますので学校でも十分注意していきます。

保護者・地域の皆様には、ご支援ご協力を頂きなんとか平成29年を終えることが出来ます。有難うございました。新しい年も「春里中学校」に通う生徒たちの未来のためにどうかお力をお貸しいただけますようお願いいたします。

### 自己有用感とは

私は春里中学校の生徒たちに、生きる力を身に付けて、人の役に立つ存在となって欲しいと考えています。そのためには自己有用感を高めることが必要です。

「自己有用感」とは10年程前から、教育心理学上で使われている言葉で、文部科学省(生徒指導リーフ)によりますと

「人の役に立った、人から感謝された、人から認められた、という『自己有用感』は、自分と他者(集団や社会)との関係を自他共に肯定的に受け入れられることで生まれる、自己に対する肯定的な評価です。『自己有用感』は、他人の役に立った、他人に喜んでもらった、…等、相手の存在なしには生まれてこない点で、『自尊感情』や『自己肯定感』等の語とは異なります。」とされています。

現在、教育現場では子どもたちに「きみが必要なんだ」と感じることができるよう教育を行っています。「自分は役に立っている」など、自分の存在を価値あるものと受け止められる感覚は、人として社会の中で生きていくうえでとても大切なものです。子どもたちだけでなく全ての人にとって、自分がこの世に存在している意味を感じることは、その人自身、エネルギーを上げることに繋がります。

校長 松井秀史

価値観が出来上がってくる「中学生時期」に、この「自己有用感」を高めることは、その生徒の今後の人生に大きくかかわると考えられます。

### 家族の一員として



年の暮れは、各家庭でも、社会全体でも何かと忙しく、掃除や片付けなど手伝いが必要とされる場面が多々出てきます。その機会にぜひ中学生に手伝わせ、感謝の言葉「ありがとう」と声かけしてください。その言葉や自分が行った行為が「自己有用感」を高め、

生きる意味、勇気を見出すこととなります。家族の一員としての役割を全うさせていただきますようよろしくお願いいたします。



### 二学期

二学期は子供たちの変容が一番大きく見られるときです。体も一回り大きくなり、学力を定着させるにも最適な時期と言えます。子供たちは今年の二学期は大きく成長できたでしょうか。まだまだという人は残り一か月間、目標を持って生活するように心がけてほしいものです。今年やるべきことは今年のうちに終わらせましょう。三学期は短く、何かと忙しく、あっという間に過ぎてしまいます。しっかりと計画を立て、年末、年始を過ごしていけるようご家庭でもご指導お願いいたします。

### ちょっと一言・・・

3年生は一人ずつ校長面談をしています。今年の3年生は家族のことを話す生徒が多い気がします。「今、家族に支えてもらっているの、将来自分も温かい家族を作りたいです。」と語ってくれた生徒の前で、胸が熱くなり、ついぼろっと感動の涙を見せてしまいました。

